

ICT(情報通信技術)と宗教

著者	阿部 一晴
雑誌名	真実心
号	37
ページ	143-170
発行年	2016-03-10
URL	http://id.nii.ac.jp/1108/00000775/

ICT（情報通信技術）と宗教

阿部 一晴

挨拶と自己紹介

みなさん、こんにちは。金曜日の夕方にも関わらずたくさん集まっていたいただきありがとうございます。私は、自分のことをこういう宗教講座の様な場で講演をさせていただくのに適していないかなとも思っています。外部から非常に有名な先生に来ていただいて、貴重で高尚なお話を聞かせていただくのがこの宗教講座のこれまでの趣旨だったと思います。私はあまり高尚な話が出来ないと、口が軽くてつい不適切なことを言ってしまうかも知れないので、そこはご容赦ください。

実は、今回こういう役割を引き受けることになったのは、小澤先生が「宗教講座をこれから少し変えていかないといけない」「学外の講師だけでなく、学内の先生方に、それぞれ

れ考えていることを普段の授業とは少し違う視点でお話いただけるといいと思う」という話をされていて、「それいいですね、私がやりますよ」と軽く言ってしまったら、本当にやることになってしまったことなのです。こんな大きな会場で話せるかというのも心配だったのですが、実際このステージに立ってみると、マイケル・サnder先生になったような気分です。みなさんはもうあまり知らない世代かも知れませんが、以前NHKの『ハーバード白熱教室』という番組で、「はい、その君」とか指名しながら一〇〇人規模の学生を相手に大学の講義、今で言うアクティブ・ラーニングを進めていくことに、すごく憧れて私もサンデル先生みたいになりたいなと思っていたので、今ここでちょっとその雰囲気だけ味わえています。

私はキャリア形成学科の所属で、ここには私の学科の一年生も多く来てくれているのですが、今年度一年生の授業は担当していません。二年生になると私が担当する必修科目もあるので授業でお会いすることになると思います。一年生の授業は直接担当していませんが、ICT演習というパソコン操作等を学んでもらう科目の全学科・全クラスのコーディネートをやっている、授業や課題内容を考えたり、成績を評価したりするのも私の仕事なので、間接的にはみなさんと関わっているとも言えます。先ほど小澤先生からご紹介

ICT（情報通信技術）と宗教

いただいたとおり、専門の担当分野は、情報やコンピュータが中心です。それ以外にもいろいろな科目を担当しています。最近では、少し興味がコンピュータから別の所に移ってきていて、今一番関心があるのが「環境に負荷を与えずに電力を安定的に供給するために出来ることはないのか」ということです。五年前に大きな地震があつて、原子力発電所が事故を起こして、今ちようどいくつか再稼働が始まりましたが、多くの原子力発電所が止まっています、電力が不足している状況が続いています。実は、私はつい最近まで情報の専門をもう一度学び直そうと、社会人大学院に通っていました。その身近なところで、京といふ名前のスーパーコンピュータが稼働しています。四年ほど前に、計算速度世界一を記録したコンピュータです。今は、四位ぐらいに順位が落ちています。日本の技術の粋を集めた高性能なコンピュータです。神戸のポートアイランドにあつて、私の大学院と同じ建物の中にあるので、勝手に自分の同僚みたいなものだと思っています。この京が、毎日頑張つて、人々の安全や命にかかわる非常に高度な科学技術計算をしているのです。実際に計算しているかどうかは外からは見えませんが、ある時、ふと「この機械は一体どのくらいの電気を使っているのだろう」ということが気になりました。そのことに興味を持ったので調べてみると、一般家庭が平均すると一日に四〇〇ワットぐらいの電力を使つて

いるのですが、京はそれに換算すると、三万世帯分にあたります。この辺りで言うと、向
日市とか長岡京市の全部の世帯と同じだけの電気をこのコンピュータ一台が消費している
ということが分かりました。やはり、今の世の中の大切なことは、電気によって支えられ
ているのだという当たり前のことを、あらためて考えさせられました。

みなさん、スマホを持っていますね。何でもすぐに調べることができるし、どこに居て
も友だちとコミュニケーションが取れるし、みなさんにとって無くてはならない便利なツ
ールです。でも、ある時見てみると、うんともすんとも言わないことがある。充電が切れ
てしまっている。最近は朝、家でフル充電してきても、夕方まで保たないという人も多い
のではないかと思います。そうなると、これは何の役割も果たさない。紙が飛びそうにな
った時の重しぐらいにはなるかも知れませんが、それ以外の用途には使えません。普段何
も考えずに当たり前のようにスマホを便利に使っていますが、充電が切れると何もできま
せん。先ほどのスーパーコンピュータの話とはレベルが少し違いますが、みなさんの日常
の便利さも電気によって支えられていることが分かるのではないのでしょうか。

今は、特に原子力発電所の多くが止まっているので、石油や石炭を燃やして発電するの
ですが、これは地球環境に対してすごく負荷がかかっています。何かもつといい方法はな

ICT（情報通信技術）と宗教

いだらうかと考えています。私の専門であるICT（情報通信技術）がもつともつと進化した、私たちの暮らしを豊かにしてくれるためには、それを支える電気が安定的に供給されるということが最も重要なことなのです。

私と宗教

私は宗教の専門家でも仏教の専門家でもありません。普段あまり宗教と直接的な関わりはないのですが、最近、実は宗教とは関わりがあるのだと考えさせられることが出てきたので、今日は少しそのお話をします。科学技術全般と宗教がどういう関係にあるのかということには、私も答えを持ち合わせてないので、なかなかまとめられないかも知れませんが、ICTという視点から宗教との関わりについてお話ししようと思います。

様々な立場の人がネット上でプレゼンテーションを公開しているTEDというものの一つで、「クリスマスと正月が同居する日本に世界の宗教家が注目！寛容の精神に見る、宗教の本質とは」^①という、ある僧侶のお話しが一時期話題になりました。このビデオが見られるURLを配布したレジユメの一番後ろの参考資料に載せていますので、興味のある

人はパソコンやスマホで見てください。

私はキリスト教系の幼稚園に通っていたので、賛美歌を歌ったり、イエス・キリストの生涯に関する劇をしたり、卒園して小学校に入ってからもしばらくは日曜学校といって、日曜日に教会に礼拝に行ったりしていました。だからといってクリスチャンというわけではありません。お寺にも行くし、神社に初詣も行くし、クリスマスや、最近ではハロウィンとか、本来は宗教行事だったお祭り騒ぎにも何となく参加します。宗教的にはある意味節操がないとも言えます。「一体何を信じているのだ？」ということになるのですが、これは私が特別ということではなくて、先ほど紹介したビデオでも取り上げられているように、多くの日本人の宗教観がほとんどこんな感じなのかなと思っています。

宗教の中では、仏教には何となく関係している気がするけれど、それほど深くは関係していないというのがずっと私の意識だったのですが、仏教が自分と密接に関わると感じさせられる出来事がありました。一昨年、私の父親が亡くなりました。九〇歳になっていたので、それなりの大往生で、本人ではないので本当のところは分らないのですが、満足した人生を送ってくれたのかなと思っています。息子の私と兄は二人とも定職を持ち自立していますし、それぞれに子どもがいるので孫もいて、それほど悔いの残る人生は送ってな

ICT（情報通信技術）と宗教

いかなと思っっています。父親は七人兄弟・姉妹の末の方で、母親も同じように兄弟が多い中での下から二番目ということで、家には仏壇がなかったり、お墓を守りこともなかったりということなので、お通夜とか、お葬式とか初めての経験で、どうしたらいいのかまったく分かりませんでした。今は便利なもので、葬儀業者さんにお金を払ったら全部やってくれますが、お坊さんに来てもらい、お経をあげてもらう為に「お宅の宗派は何ですか」という問題が出てきました。父の宗派は、本山が高野山である真言宗ということなのですが、「私の家が真言宗であるというのは一体どこから来ているのだろう」という疑問も生じました。元を辿れば、私の父親の実家、亡くなった祖父母が真言宗だったということなのですが、「真言宗の檀家に生まれた子ども（亡くなった私の父親）は真言宗を引き継いでいるのか？」そして、「その息子である私も真言宗なのか？」ということに疑問を感じました。別に真言宗に入信申込みをした記憶もなくて、会員証も持っていないのですが、何となく世間一般からすると、父親も、私も、真言宗らしいのです。このことから、「私の家は何宗であるというのはどういうことなのか」を考えました。今もお墓はないのですが、小さな仏壇を作って拜んでいます。お葬式があつてから、宗派のことをその様に考えるのは不謹慎なところもあるのかも知れませんが。

今回宗教講座で話をさせていただくことになって、あらためて考えてみると、宗教とは無関係と言いながら、実は関係のある役割を担っていることに思い当りました。真宗大谷派・浄土真宗本願寺派など、親鸞聖人の教えを基にしている一〇派から構成される「真宗教団連合」という組織があります。私は、その出版広報委員を大学の校務として担当させていただいています。そういう意味で、私は父親の葬儀の何年も前から宗教に関わっていたことになりました。「真宗教団連合」は、宗祖親鸞聖人の教えを受け継ぐ真宗教団一〇派からなる連合体で、浄土真宗の教義を正しく伝え広めるとともに、世界平和の進展と人類永遠の福祉に貢献することを目的としています。出版広報委員の仕事は「浄土真宗の教義を正しく伝え広める」ことです。今の時代ですから、紙の出版物を出すだけではなくて、インターネットを使って広く広報していて、私はコンピュータの専門家として、インターネットを広報に活用する役割を担当させていただいています。私ともう一名京都女子大学の先生以外の委員は、様々なお寺の僧侶の方たちばかりなので、会議も、すごく不思議と云うか、異空間です。年に数回、東本願寺か西本願寺で会議があります。

私は二〇一〇年からこの委員を担当させていただいているのですが、ちょうど翌年の二〇一一年に宗祖七五〇回忌（親鸞聖人がお亡くなりになって七五〇年）と同時に、教団連

ICT（情報通信技術）と宗教

合が四〇周年ということ、親鸞聖人のゆかりのものを展示する『親鸞展』という大きな
 展示会を京都と東京で開催したり、『親鸞』という名前の立派な本を出版したり、四〇周
 年記念のポスターを作ったりしました。同時に、「これからの時代は、いかにインターネ
 ットを活用していくか」ということを考え、私はWEBページの刷新を任されることにな
 りました。と言うより、押しつけられてしまったという感じかも知れません。他の委員の
 方がみなさん、「私はインターネットのことは分かりませんから、どうぞよろしく」みた
 いな感じで、気がついたら全責任を負っていたという状況でしたが、利用者の方にとって
 メリットのあるWEBページにしていこうと考えました。

他の宗教関連の授業等で学んだ人も多いと思いますが、親鸞聖人は、京都から関東、ま
 た京都に戻られて、日本中に教えを広める活動をされていたのですが、その辿られた道
 に、立ち寄られたとか、何かをされたとか、親鸞聖人ゆかりのお寺が結構たくさんありま
 す。日本人は、宗教的にも「ゆかりの地を巡る」ことが好きな人が多い様です。例えば四
 国八十八箇所巡礼や西国八十八箇所、お寺を廻って朱印を押してもらうとかいったこと
 です。そこで、真宗教団連合でも、八十八箇所ほど大げさではないですが、「親鸞聖人七
 五〇回忌を機に、親鸞聖人にご縁のあった所を廻ってみませんか？」といったことをWE

Bで積極的にやっていったらどうかと考えました。「ゆかりの地をインターネットで見られるようにする」これが私の仕事でした。二〇一一年はスマートフォンが出回り始めた頃で、お年寄りにもスマートフォンを持っている人が増えていたので、せっかくお寺を廻ってもらったのだったら道に迷わないように、googleマップなども駆使して、「次は〇〇寺です。このお寺はここにあります」といった様に、スマホ版での機能の特徴にすることにしました。おかげさまで結構多くの人がスマホを使って、あちこち巡ってくれている様で、やって良かったなと思っています。「スマホで地図が分かりやすいです」というコメントがあつたりして、WEBを刷新したことによって喜んでくれる人がいるということが分かりました。調べてみると、これはオリジナルではなかったみたいで、四国八十八箇所を巡るための『スマホで巡礼 お遍路アプリ』といったものも既にありました。仏教、宗教、お寺、とスマートフォン、コンピュータは、一見縁遠いような気がしますが、だんだん近い存在になってきているのかなと思います。ネットで、情報、コンピュータ、ITと仏教はどんな関係か検索してみると、例えば『ご住職のための決定版寺院ソフト』といったものが販売されていることが分かります。若干、罰が当たりそうな表現という気もしないでもないですが、他にも「檀家さんの管理、墓地の管理が簡単にできます。あなた

ICT（情報通信技術）と宗教

のお寺にもぜひ一本」とかというパソコンソフトも売られています。それと、最近ある所で話題になっていたのですが、法事にお坊さんに来て拜んでもらうためのチケットがアマゾンで売られています。「お坊さんに拜んでもらいたい」と思ったらカートに入れる。三万五千円でお坊さんが家に来てくれるというサービスが提供されています。ここまで来ると何となく個人的には行きすぎという感じがしなくてもないですが、コンピュータとか情報と、仏教とかお寺が知らない間に融合してきているのが今の時代なのかなとも思います。

情報と宗教

ここからは、何となく私の普段の授業みたいになってしまっているのですが、「情報」とは何だろうということ或少しだけお話しします。情報には、それを発信する人がいて、受け取る人がいる。この宗教講座のシチュエーションに当てはめると、私が発信して、みなさんが受信する。そして、私からみなさんに伝えたものが、みなさんにとって役に立つことであつたり、今まで知らなかったことを知つたり、新しい知識になつたりすると、それが

「情報」になります。だから、役にも立たない、知識にもならない、今日のお話がいまなさ
んにとつてそういうものだったとしたら、これは単なる雑音であつて情報ではないという
ことです。一方、メディアというのは、その情報を伝えるための通り道のことです。パワ
ーポイントを使ってスライドを見ていただきながら、言葉でしゃべつて、同時にちよつと
身振り手振りのアクションを織り交ぜながら、私はみなさんに伝えたいことを伝えていま
す。これがメディアです。

では、情報はどのように我々の身近な存在になつてきたのでしょうか。アルビントフラ
ーというアメリカの政治学者が、三十年以上前に『第三の波』という本を出しました。人
類が地球上に現れてから、「農業」が発明されたことによつて社会が大きく変わった。次
に「工業」が出てきて、また社会が大きく変わった。そして今度は、「情報」です。イン
ターネット、コンピュータが出てきて、また社会がすごく大きく変わった。人類が地球上
に存在するようになってから、我々は三つの大きな革命的な出来事に遭遇しています。そ
の三つの出来事によつて、それまでの社会とそれ以降の社会が大きく変わつてきたとい
うのが「第三の波」という考え方です。

昔は狩猟社会でした。自分たちで食べ物を作るのではなくて、獲物を追いかけたり、森

ICT（情報通信技術）と宗教

に行つて食べられる木の实を拾つたりして暮らしていました。積極的に自分たちで住む所を決めたりはできません。食べ物がある所を求めてあちこち移り住んでいた時代で、いわゆる原始時代と言われている頃です。その時にたぶん「言語」が生まれました。自分一人では狩猟ができないから、周りの仲間と力を合わせて獲物を仕留める時に、「あつちの方に獲物がいた」「あちらだ」「こちらだ」とか、非常に危ない目にあつた時には「あそこは危ない」ということを伝えるために言葉ができてきました。次に「農業」の時代になると、今までは食べ物を求めてあちこちに移動しながら暮らしていたのが、今度は自分たちで田んぼとか畑を作つて、そこでお米を作つたり、野菜を作つたりすることによって定住するようになりました。そこでは、いかにお米を作るかということとか、天気が良いとか悪いとか、嵐が来るとかといったことも非常に気になってきます。次に「工業」の時代になると、石炭や石油を使つて、人間の力以上の機械を使うようになりました。そして今の「情報」社会では、コンピュータとかスマホをみんなが日常生活で使うようになって、また生活がガラツと変わってきています。

地球上に現れた人類の変化として、話し言葉、文字（時間・距離の壁を超えて何かを記録する、伝えることが可能になる）、そして活字があります。工業が発明された時に、グ

ーテンベルグの活版印刷（印刷技術）が初めて世の中に出てきたのですが、印刷技術ができたことによって一番恩恵を受けたのは（本当かどうかは昔のことなので分からないのですが）『聖書』だと言われています。イエス・キリストの教えを書き記した『聖書』は、今まで手書きで書き写さないといけなかったのが、大量に同じものを印刷できるようなになったので、キリスト教に大きな影響を及ぼしたと言われています。そして今、インターネットとかパソコンで、こういったものが発明される前とは全く違うコミュニケーションの取り方、情報の伝達の仕方に変化してきています。言葉が出来て、文字が出来て、印刷が出来て…ということが新しい社会の変化をもたらしました。人が集まって、集落が出来て、「たくさん収穫できますように」と祈りを捧げたりもしたのではないのでしょうか。人類の歴史の早い段階からさまざまな形で宗教の様なものが出てきたのだろうと想像できません。

私の関わっている真宗教団連合を含めてですが、宗教をどのように広めていくかということも大切なことも知れません。私も普段意識をしていることですが、何事もコソコソとやっている感じは良くない気がします。自分たちは何を信じて、普段どういうことをやっているのかを多くの人に知ってもらおう。パブリックに自分たちのことを知ってもらおう。

ICT（情報通信技術）と宗教

宗教にも、情報をできるだけ開示する責任があると思います。紙だけではなくてネットを使ったり、場合によってはテレビを使ったり、ラジオを使ったり。情報の送り手から受け手に伝える通り道を全部メディアと言います。パワーポイントもメディア、私が今しゃべっている言葉もメディア、私が手を動かしたり体を動かしたりするアクションもメディアです。いろいろな人が受けとれるように、いろんなメディアを使って社会に広く開かれたものを目指していかなければいけないということです。ICTを使っていかに情報伝達をするか、広報をするか、自分たちの思いを伝えるか、が一つのポイントだと思います。

例えば、仏教の領域で言えば、『全日本仏教会』というホームページには、本学の宗派である真宗大谷派も含めて、いろいろな宗派が入っています。それぞれの宗派の情報発信をとりまとめて、WEBページで「仏教」がどういふものであるか、「仏教」の基本的教えはどういふものなのか、という広報をやっています。キリスト教も大きく分けてカトリックとプロテスタント、その中でもいろんな教団があつて、仏教と同じで、非常にたくさんのお教えがある様ですが、『日本キリスト教連合会』というWEBページがあつて、そこで、カトリック、プロテスタントの壁を超えて、いろんなキリスト教の教えを公開、広報しています。

みなさんは世界史が必修ではなかったかも知れませんが、高校で世界史の勉強をした人は多いだろうと思います。その中で、世界三大宗教というものが出てきたと思います。「仏教とキリスト教とイスラム教」が世界三大宗教です。キリスト教と仏教は宗派の壁を越えて、先ほど述べたような情報公開をしています。日本においてイスラム教はあまりこういう活動をしていません。いろいろ理由はあると思いますが、イスラム教はすごく戒律が厳しいことも関係しているのではないのでしょうか。イスラム教信者は、お酒は一切飲まない、豚肉は絶対に食べない、これを守っています。肉を食べないだけでなく、豚肉のエキスの入っている調味料もダメで、アルコールがちょっとでも入っているお菓子もダメです。それぐらい戒律も厳しいし、信者は毎日モスクに向かってお祈りを欠かしませんし、たぶん三つの宗教の中である意味一番厳しいのかなと思います。だから、日本の「クリスマスとお正月が同居する」といった様な緩い感じにイスラム教は馴染まないし、根づきにくいのではないのでしょうか。しかし、信者が全く居ないわけではありません。日本人のイスラム教信者も当然居ます。

話は少し変わりますが、「イスラム」という言葉を聞いてみなさんが最初に思いつのは、最近であれば、通称IS（イスラム国）ではないかと思えます。つい最近もパリで無

ICT（情報通信技術）と宗教

差別に多くの人を殺してしまふ大きなテロを起こしました。「イスラム」の名前が付いているから何となく「イスラム教なのかな？」という気がしますが、イスラム教徒がみんなテロをやっているというわけではありません。イスラム国が何かというと、一般的に言われているのが「イスラム原理主義」との関係です。とにかくイスラム教が一番、イスラム教以外の教えは一切認めない、という非常に強硬な考え方が突出して、その結果過激派になってしまっているというのが実状なのかなとも思います。テレビなどの報道を見て、「イスラム教って怖い」「イスラム教って悪い」と直感的に思ってしまうかも知れませんが、それは間違いです。イスラム教という宗教が悪いわけではなくて、考え方のすごく極端な人たちが過激な行動に出ているということです。

では、過激な宗教はイスラム教だけでしょうか。ネットのニュースをよく見ている人は知っているとありますが、この冬のスターバックスのカップは真っ赤です。十二月のクリスマスバージョンなのですが、去年まではトナカイとか、サンタクロースとか、いわゆるクリスマスの絵柄でした。しかし、今年は一切クリスマス柄を使わずに無地の赤なのです（赤も何となくクリスマスっぽいですが）。そうすると、アメリカのキリスト教信者が大騒ぎをしたのです。「スターバックスはキリスト教をバカにしているのか」と。ちよつと考

え方が飛躍しているなとも思いますが、「これまでクリスマス柄のカップを出していたのに、今年クリスマス柄のカップを使わないのはけしからん」という騒ぎが起きているそうです^②。先ほどのイスラム原理主義と同じように、キリスト教にも原理主義があるので。キリスト教が言っていることが全て。聖書に書いてあることが全て。それ以外は一切認めない。アメリカでは来年の大統領選挙の候補者選びをやっていますが、候補者の一人であるドナルド・トランプという人が、「テロが起こるからイスラム教信者はアメリカに入国させなければいい」というキリスト教原理主義的なことを言って物議をかもしています。アメリカには結構そういう人が居る様です。しかし、「聖書に書いてあることが全て正しい」とすると、すごく矛盾が起こってくるのです。

科学技術と宗教

ここから「科学技術と宗教」の話をしていきます。高校の時「生物」を学んだ人は、ダーウインの『種の起源(進化論)』を知っていると思います。人間は猿から段々進化してきて、ネアンデルタール人、北京原人とかを経て、今の人間になったというのがダーウイ

ICT（情報通信技術）と宗教

ンの進化論なのですが、これをキリスト教原理主義では認めるわけにはいかないのです。聖書に「神様がアダムとイヴという二人の人間を作った」と書いてあるからです。人間が猿から進化したとは書いていません。だからそれは間違いということですよ。これはどちらが良いとか悪いとかはないのですが、ダーウィンの進化論は科学で、キリスト教原理主義は科学を否定する宗教ということになるでしょうか。

これに少し関係のあることが日本でも起こっていました。去年の出来事です。結構大きく取り上げられたのでニュースで見たといい人もいるかも知れません。ある宗教団体が大学を作りたいということで設置申請をしましたが、当時の下村文部科学大臣が、その宗教団体の教義のベースとなっていて「科学的合理性を立証できないから認めるわけにはいかない」と許可しませんでした。このことで、私が疑問に思ったのは、「科学的合理性を立証できていない≡非科学的である」ということなのでしょうが、もしそうだとすると、すでに認可されている、本学をはじめとした仏教を教えとする大学、キリスト教を教えとする大学で教えていることは、全て「科学的合理性を立証できていない」ということとかどうかということですよ。私は、この大学が認可された方が良かったと思っています。ではありません。その大学を認めたくなかった気持ちも分からないではないのですが、認

めない理由としてこう言われると、我々にも心配なところがないのかなと考えてしまいます。これが宗教と科学の一番の問題です。

たぶん宗教の出発点は、「自然界を畏れる」とか、「神を畏れる」といったようなところから始まって、「今年もお米がたくさん採れますように」とお祭りをして神様に祈ったり、お寺だったら念仏を唱えたり、「人間よりもっと大きな力を持っている何か」に対する恐れ、尊敬の入ったものだとは私は考えていました。これは個人的な考えですが、それも最近怪しくなってきました。先ほどご紹介しました、私が「地球環境に負荷をかけずに電力を安定的に供給できるようにしなければいけない」と思ったきっかけがスーパーコンピュータの京けいなのですが、この京をはじめとしたスーパーコンピュータは、超高速な計算能力を持っています。京が話題になった頃はみなさんまだ子どもだったので知らないと思うのですが、理化学研究所という京を開発している組織が、日本の技術を結集すれば世界で一番速いコンピュータを作ることとは不可能ではないと、世界一の性能を目指して日夜邁進していました。その時に、今の自民党の前の民主党政権の枝野大臣とか蓮舫大臣が、国の予算（税金）を有効に使っているかどうかの「仕分け」というのをやっていて、「一番でなければダメなのですか。二番じゃダメなんですか」という有名な発言をしたのがこのコ

ICT (情報通信技術) と宗教

ンピュータだったのです。一番を目指すために文部科学省が膨大な予算を使っていたのですが、それが税金の無駄遣いと言われたのです。それで、予算も大幅に削られて非常に苦しい状況になったのですが、理化学研究所と実際にコンピュータを開発している富士通が必死になって頑張つて、意地で世界一になったのです。このコンピュータは一秒間に一京（二兆の一万倍）回の計算ができる能力を持っています。人間が脳で考えていることを遙かに超えています。だから、「人間を超えるところに宗教がある」と考えれば、この京というスーパーコンピュータは宗教と言えるのだろうか？と考えたのです。

似たようなことは他にもいろいろあります。元素周期表を知っていますか（今になって思えば高校の時に化学ももう少ししっかりと勉強しておけば良かったと思います）。水素、ヘリウム、リチウム、ベリリウム、ホウ素、炭素、窒素…、今でも私は全部言えますが、地球上に存在している物質は全てこの元素の組み合わせでできています。今は一〇〇数個まであるのですが、自然界に元々存在するものは九十二番目のウランまでです。原発事故で問題となっているプルトニウムの元素番号は九十四で元々自然界には存在しません。キリスト教原理主義的に「地球は神様が作ったものだ」と考えると、ウランまでは神様（かどうかは分かりませんが人間を超える何か）が作ったが、ウランから後の元素番号

の元素は、そうではなくて人間が作ったものです。そうすると、もしかしたらこれも宗教かも？という疑問が湧きます。もっと身近なところで、最近は「遺伝子組み替え食品」について話題になることがあります。以前は、植物などを「品種改良(交配)」と言っているいろいろなものを掛け合わせながら新しい品種を作っていたのですが、今はそんな面倒なこととはせずに、病気に強いトウモロコシの遺伝子を病気に弱いトウモロコシに入れて新しい品種を作ってしまうます。そういう意味では「これも宗教か？」と考えさせられます。もつと言うと、京都大学の山中教授が研究しているiPS細胞は、いろんな臓器を作り出すことができる魔法のような細胞です。今まで絶対に治せなかった病気を、iPS細胞から培養した臓器で治すことが可能になってきます。これも何となく人間を超えた存在「宗教」の領域に入り込んでいないか？といったことを考えてしまいます。人間を超えたところにあつて、人間ではどうしようもないことを司っている宗教の領域に、人間が踏み込んでしまっています。今まで、「ここからは人間が口出しすることじゃない」「人間がやることじゃない」という様に線引きされていたところに、スーパーコンピュータ、ウラン以降の新しい元素、遺伝子組み替え食品、iPS細胞…が踏み込んでいってしまったているのかなと考えてしまいます。ICT(情報通信技術)が進化したことによって出てき

ICT（情報通信技術）と宗教

たインターネットやスマホなども、これらがどんどん進化する時に、「宗教」という人間を超えたものとの関係はどうなるのかなと、私自身はすごく気になっています。納得のできる答えは持っていないのですが。

みなさんと宗教

最後に「みなさんと宗教」のお話をして終わりにしたいと思います。日本国憲法第二十条には『**信教の自由**』が明確に謳われています。我々日本人（留学生の方がいるかもしれませんが）はどんな宗教を信じてても良い、信じなくても良い。宗教儀式に参加するのも自由、参加しないのも自由。宗教に関しては個人が尊重されているということです。言葉で分かりやすくすると、自分が、仏教を信じる、キリスト教を信じる、イスラム教を信じる、それ以外の何かを信じる。例えば、「去年までは仏教を信じていたけれど、今年からキリスト教に変わりました」というのも認められるのです。「私は宗教なんて何も信じません」「宗教とは関わりたくないです」というのも許されます。みなさんは自分の意志に従って宗教を選べます。本学のような根本に真宗大谷派の教えがある大学でも、真宗大谷

派の門徒であることを入学の条件にはしていませんし、入学したからと言って信じなくてはいけないことにはなっていないと思います。常識的に考えて、積極的に親鸞聖人の教えを否定するようなことは、(憲法では認められているかも知れないけれど) 本学の学生としては宜しくないことだろうとは思いますが。これはみなさんだけじゃなくて私もそうです。申し込んだ記憶もないけれど真言宗らしい私も、だからと言って、真言宗の教えが正しくて親鸞聖人の教えが正しくないとは思わないし、そういうことを公の場で発言することは絶対にしません。

少し心配なのが、宗教団体を作ることには憲法で自由に認められているので、よく分からないいろいろな宗教団体が出てくることです。仏教でもない、キリスト教でもない、何だか分からないものが結構あって、大学生がその被害(という表現は正しくないかも知れませんが)に遭っています。龍谷大学のWEBページには、「カルトの勧誘に注意してください」と書かれています。よく分からない宗教団体に学生が入るように勧められる被害が結構多かったそうです。神戸大学のWEBページにも同じように「カルト系団体の勧誘に注意してください」と書かれています。正当な宗教に対する新しい宗教、新興宗教という言葉方をされていた時もあったのですが、反社会的であったり、他人に危害を及ぼしたり

ICT（情報通信技術）と宗教

といったものをカルトと言うのかなと思います。実際にそういう宗教団体がたくさんあります。学生がそういう勧誘にあつて被害に遭つてしまうことが多いそうです。特に、学生が狙われることが多いのです。そういった団体の勧誘にも今は一番有効なメディアであるネットが使われています。例えば、きれいなWEBページに書かれていると、何でも本当のこと、正しいことに思えてしまいます。インターネット上に書いていることは正しいことのように思えてしまう。ある団体が「こんな良いことやっています」とWEBに書いて、そこに綺麗な写真でも載せていたら「素晴らしい団体だな」と思つてしまうかも知れません。

少し気になる情報があつたのですが、最近「インターネットには正しいことしか載っていない」と思う小学生が増えてきているということ③です。みなさんはどうですか。いろいろとネットで調べたり、毎日ネットにアクセスしたりしているとと思うのですが、ネットに書いてあることが全部正しいのかどうか。「たぶん、ウソもあるだろうな」と思っているだろうとは思いますが。ある企業が、十代のスマホ利用者にアンケートを採つて分かつてきたことですが、今や、十代の若い人たちはテレビを観る時間よりもネットにアクセスする時間の方が数倍長いのです。では、一番信用できる情報源は何かというと、ネットの信

頼度はまだ低い様です。テレビとネット、どちらを信じるかと言うと、「テレビの方を信じる」人がまだ多いのです。^④これには私も多少気持ちが救われるのですが、ネットの方が正しいと思っている人もゼロではないのです。そして、先ほどの小学生の発言です。ネットには正しいことしか載ってないという子どもたちが、いずれ中学生、高校生、大学生になってくると思うと、少し恐いところがあります。

最後に、みなさんがいろいろなことに騙されないとか、何だかよく分からない宗教団体に引きずり込まれないように注意するためには、ネット上にある情報がウソなのかホントなのかを見極める目が必要です。言うのは簡単ですが、ではどうやったらウソかホントかを見極められるのか。ネットを使っただけで、おかしな人に誘われたとか、困ったことがあったら、すべて自分で解決しようと思わないことが大事だと思います。ネットはネットのただで全部解決しないといけないと思ってしまいう人が多いのですが、おかしなことがあったり、困ったことがあったら、すぐに大人、家族であったり、大学の先生とか職員の人に相談をしてください。ちょっとしたことをご迷惑に思われるかもしれませんが、大ごとにならないければ、後で笑い話にしてしまえば良いと思います。

今日の講座に関して、みなさんに宿題を一つ出してくださいます。今日はい

ICT（情報通信技術）と宗教

ろいろな話をして、あまりまとまりがなかったのですが、みなさんは今、ネットがなくてはならない社会の中で生きていると思います。みなさんがいろいろな情報をネットから得たり、いろいろなことを判断したりする上で、ネットを使うのはこれからも変わらないと思います。今日聞いた話を踏まえて、「気をつけないといけない」と思うことを自分なりに考えてみてください。ネットと付き合っていくうえで、このことは気をつけていないと危ない目に遭うのかなとか、被害者になってしまふのかなとかといったことを、少し考えて、まとめて提出していただければと思います。

最初に言ったとおり、私はこういう場で講演をさせていただくには適さないと思っているのですが、今日は少し背伸びをして、自分自身の宗教との関係、日頃疑問に思っていた、科学技術が進化すると人間と宗教の関係はどうなるのかということ、みなさんがネット上の情報に騙されて、おかしな宗教みたいなものに巻き込まれないようにという、この三つをお話させていただきました。私自身が今回こういった話をする事によって、普段あまり考えないこと、今回は宗教についてでしたが、非常に良い頭の整理ができました。人間のことが不思議に思えたり、世の中が不思議に思えたり、多くのことを考えさせられました。これに関連して、私の話の中にも出てきた日本史とか世界史とか、化学とか生物

の話が結構たくさん絡んでいることに気付いたのではないかと思います。高校時代は、単にテストで点を取るだけの勉強だったように思いますが、今になって考えると、日本史も世界史も、化学も生物も、みんな社会と繋がっています。だから、せつかなのでいろいろなことを学び直してみたらいいかなと思います。

また、ネット社会になって、みなさんが気を付けていかなければならないことがたくさんあります。そのことの一端でも、今日の話から感じていただけたらと思っています。

ちようど宗教や仏教のことを少し考えてみたことをきっかけに、今さらですが本学の校訓である『眞實心』、慈悲の心というものを噛みしめています。思いやりの心、他者への配慮、共に支える心というのは、すごく良い校訓だなと思っています。みなさんも眞實心、慈悲の心を忘れずに、お互いに思い合い、他者に配慮し、共に支え合って日々を送っていただければと思います。ということ、私の話は以上になりたいと思います。ありがとうございました。

——二〇一五年二月一日——

ICT（情報通信技術）と宗教

〔参考資料〕

- (1) 「クリスマスと正月が同居する日本」に世界の宗教家が注目！ 寛容の精神に見る、
宗教の本質とは
<http://logmi.jp/34073>
- (2) クリスマスへの挑戦？ スタバの無地のカップが物議
<http://www.cnn.co.jp/business/35073166.html>
- (3) 「インターネットはすべて正しい」——危険な10代の情報リテラシー
http://japan.cnet.com/sp/smartphone_native/35074265/
- (4) 「10代のスマートフォン利用状況に関するアンケート調査」
https://www.justsystems.com/jp/download/contents/fastask/biz/report/fa_report-teensmartphone-20151120.pdf